

<編集部にて>の記

- W:** お祭り、食べ物や飲み物、美しい風景といった実生活の具体的なことから取り組んだ後だから、精神や哲学に関するもっと抽象的な記事を書くことにしましょう。
- M:** とんでもない！ そういうことについて、ほく何も知りませんよ！
- W:** そう思ったわ。だからまずはともかく調べてみてちょうだい。その後、私も調査に同行するわ。ハイデルベルク、チュービンゲン、フライブルクといった大学町へね…。
- M:** それにしても最近、よく取材旅行に出かけますね。もちろん編集長と一緒に古い大学町へ行けるのは、うれしいことなんです…。
- W:** そうでしょ!? 「ワインに真実あり(酒中に真あり)」っていう格言もあることだし、ワインと真実との関係、それに精神と哲学の関係について、まずはともかくワインを飲みながら調べましょう…。
- M:** こういった種類の赤ワインは今までに飲んだことがありません。これは何ですか？
- W:** それはレームベルガー(ワイン用ブドウの品種)、かなり濃厚な赤ワインね。このごろではゼクト(スパークリングワイン)タイプもあるのよ。すばらしいワイン、と言っているわ！
- M:** その前に飲んだ赤ワインは、軽めで食事によく合いましたね！
- W:** あれはトロリングガー(同じく、ワイン用ブドウの品種)、比較的軽めの赤ワインよ。最近では、ほかにもいくつかが新しい種類の赤ワインがあるわ。たとえばドルンフェルター、あるいはヘーゲル、ヘルダーなんているものもあるわ…。
- M:** そんな名前のワインは聞いたことがありませんよ！ どうしてそんなに詳しいんですか？
- W:** へへえ、だって私ヴァインスベルク生まれだもの！ あそこにはドイツで最も古いワインおよび果物研究施設「ヴァインスベルク国立ブドウ園」があるのよ。ここではワインの製造、貯蔵、熟成、さらにはさまざまなブドウ品種の植え付けや育成について研究が行われ、また新たな品種の開発も行われているの。
- M:** 有機栽培のブドウなんかもあるんですか？ そういったことも学べるんですか？
- W:** ええ、もちろんよ。ヴァインスベルクでは、世界中からやってきたワイン製造技

術者が専門教育を受けているの。日本からもね。

<雑誌記事>の記

ワインと真実

バーデン＝ヴェルテンベルクでは、かなり多くのワインが生産され、また飲まれます。バーデン・ワインも、ヴェルテンベルク・ワインも、フランケン・ワインも、あるいはプファルツ・ワインも、それぞれ特有の個性を持っています。ブドウ栽培地域は、なだらかな丘陵や谷にブドウ畑が広がっていて、景色を見ればすぐにそれとわかります。穏やかな気候と肥沃な土地が、上質で香り豊かな、しかも甘くないブドウを熟させるのです。

ここで生まれたヘッセやヘルダリーン、あるいはシラーといった作家や詩人たちは、あるいはケルナー、メーリケといった19世紀のシュヴァーベンの詩人たちのうちのほとんどと誰ひとりとして、ワインと料理なくしてその存在を考へることはできません。「酒中に真あり」という格言に従って、おそらくまた、まさにここバーデン＝ヴェルテンベルクで、多くの哲学者が活動していました。たとえばヘーゲル、フッサール、フィヒテ、シェリング、あるいはまたハイデガー、ブロッホといった人々たちです。しかしそれはワインのせいなのでしょうか？ それともむしろ、バーデン＝ヴェルテンベルクにチュービンゲンあるいはフライブルクといった伝統的な大学が、また今日のドイツ国上における最古の大学、すなわち1386年に創設されたハイデルベルク大学があるせいなのでしょうか？ ひょっとしたらワインは、ベンツやダイムラーといった有名な発明家の独創性にも影響を与えたかもしれませんね？ そのエンジンと自動車の新しい開発は、今日もおこなわれていきます。この地域の特徴はまた、人々がただ単に何かを楽しむだけでなく、正確に研究するという点です。ワインもまた、その栽培や熟成、新種の開発について、たとえばヴァインスベルク国立ブドウ園で研究され、また教育されています。

(トーマス・マイアー)